

南河内小中学校区

【目指す子ども像】

・自ら学んで互いに高め合える子 ・心豊かで助け合える子 ・体を鍛えやり抜く子

【実践研究課題】

自己を見つめ、よりよい生き方を求め続ける児童生徒の育成
～自律心を育む道德教育の推進～

各部会の取組

<学習指導部会>

【児童生徒の実態】

学習状況調査の質問調査の結果を踏まえると、「より難しい問題にであうとやる気が起きる」に対する肯定的な回答が県平均と比べてやや低い状況である。授業の様子からも、間違いや失敗を気にして消極的な児童生徒が多く、自分でできることを生かして見通しを持って粘り強く課題に取り組もうとする児童生徒が少ないという傾向が見られる。

【部会のねらい】

9年間を通して、課題意識を持ち、粘り強く学習に取り組む児童生徒の育成を目指す。そのために、「児童生徒の目線に立っためあてやねらいの設定の工夫」「自分自身の課題達成状況を実感できる振り返りの実践」について取組を進める。

視点	<A> 教育課程の工夫改善	 教育活動の連続性の確保	<C> 教職員間の連携・協働	<D> 家庭・地域との連携・協力
----	------------------	--------------------	-------------------	---------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒が課題意識をもって取り組みやすい、課題・ねらいを設定する。 めあてと振り返りのつながりを意識した授業を行い、児童生徒の達成感につなげる。 教職員同士が互いに高め合ったり、連携を図れたりする機会となるよう授業公開等を実施する。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入では、子どもの身近なものから興味関心をひくことにより、課題意識をもって取り組めるようになってきた。また、分かりやすい言葉を意識しながら、子供たちと一緒にめあてを立てるよう意識できた。 授業においては、振り返りから逆算して展開を計画することができた。 授業公開では、他の先生方の授業の展開の仕方を学ぶ機会となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 授業の導入から本来取り組んで欲しいところへ興味関心が続かない。考えるための知識を児童生徒に定着させたい。 単元を通してどんなことができるようになったかを振り返る時間をとりたい。 授業公開では、参観する側の意識・ねらいの持ち方を、高めていけるようにしたい。また、参観したら、感想など授業者に伝えられるようにしたい。



授業公開



学習指導案検討会



S&Uラボ事業(授業研究会)

<特活部会>

【児童生徒の実態】

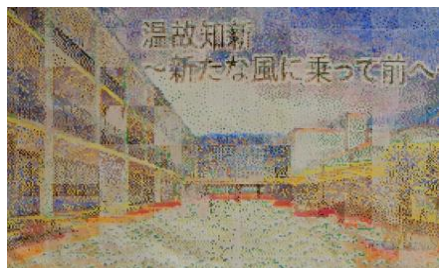
縦割り班活動等で上級生は下級生に教えたり、面倒を見たりして、積極的に関わろうとしている児童生徒が多い。下級生もそういった上級生を慕っており、互いに良い関係が築けている。一方で、実践的な場面での善悪の判断ができず、正しい事ではなく、楽しい事、楽な事に流されることが多い。また、日々の活動において、教師に判断を委ねる児童生徒が多く、自分で考えようとする意識が低い事が課題である。

【部会のねらい】

- 1～4年生は、他の学年と一緒に仲良く活動する中で、よりよい人間関係や集団を築くための方法を知る。
- 5～7年生は、よりよい人間関係や集団を築くために、自ら考え判断し行動できるようになる。
- 8、9年生は、リーダー性を育み、集団をよりよい方向へ導く。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	・委員会活動の指導の工夫を行っていく。5～9年生の活動に留まらず、それ以外の学年にも関わりを広げていく。その活動を行う上で、事前・事後における教職員同士の情報交換、共通理解を図る。また、体育祭や夕顔祭などの行事活動で、それぞれの学年が自分の役割を自覚して、活動できるようにする。
成果	・夕顔祭のモザイクアート作成では、縦割り班で協力して作品制作を行ったことで、これまでよりも児童生徒の交流を深めることができた。 ・各委員会がお昼の放送などを通して、全校を対象とした企画を行っており、前・後期のつながりが感じられた。 ・縦割り清掃では、9年生に限らず、上級生が下級生に指示を出す姿も多く見られた。
課題	・9年生が各班の班長を務めるため、9年生になったときを想定して、学年行事などでは多くの児童生徒に活躍の機会を与えていけるよう教員側が工夫をする。



学校祭全校モザイクアート作品



児童生徒総会



図書委員による読み聞かせ活動

<児童・生徒指導部会>

【児童生徒の実態】

周りの児童生徒の様子に流され、正しい行動をとることができない児童生徒が多い。
 嫌なことや辛いことに直面すると、逃避しようとする児童生徒が多い。
 学校行事や縦割班活動において、上級生が進んで下級生に声を掛けたり、手本となる行動をとったりすることができる。

【部会のねらい】

前期課程と後期課程で連携し、系統的な児童・生徒指導を展開することで、自律心を高め、正しい判断力を身に付けさせる。

視点	<A> 教育課程の 工夫改善	 教育活動の 連続性の確保	<C> 教職員間の 連続・協働	<D> 家庭・地域との 連携・協力
----	----------------------	------------------------	-----------------------	-------------------------

取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縦割り班活動や学校行事等の異学年交流の際に、上級生と下級生のそれぞれの役割を自覚させながら活動に取り組ませる。 ・ 日々の生活指導場面において、発達段階に応じて、ルールや決まりの意義を考えさせるような指導をする。 ・ 児童生徒指導部会を要とし、前期課程と後期課程において、児童生徒の情報や指導方針等、共通理解を図り、日頃の児童・生徒指導に生かす。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異学年交流が充実し、上級生と下級生のつながりが強くなった。上級生が下級生に声をかけたり、下級生が上級生の姿を手本とする場面が増えた。 ・ 児童・生徒指導部会やウィンバードの日々の記録により、児童生徒の情報や指導方針等について共通理解を図ることができ、児童・生徒指導に生かすことができた。 ・ 校内の規則を改訂するにあたり、児童生徒が主体となって話し合い、決まりについて考えるよい機会となった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嫌なことや辛いことに直面すると逃避する児童生徒について、前向きな言葉かけや、その子に応じた支援策を提案したが、良い変容は見られなかった。



児童生徒指導部会(週1回)



縦割班による清掃活動



全校縦割班奉仕活動(除草作業)